



インスピレーションになるう

# 成田ロータリークラブ 週報



国際ロータリー2018～19 年度会長 バリー・ラシン

第 2828 回例会 平成 31 年 1 月 25 日 (金)

- ◇ 点 鐘 神崎 誠 会長
- ◇ ロータリーソング 我らの生業
- ◇ 四つのテスト 歌唱
- ◇ お客様紹介  
成田空港南ロータリークラブ 土屋 俊夫 様



## ◇ ニコニコボックス

平山 秀樹 幹事：昨日、伊藤会員の日本生命成田支所において矢野会員のブレインサブライ社の社長さんのセミナーが行われました。会社の社長として労務管理の興味が半分、矢野会員のハートを射止めた社長さんはどんな方かという好奇心半分で参加させていただきました。参加してみると大変見識の高い立派な方で、働き方改革などでリスク高まる現代の労務管理に対応した就業規則の作り方、扶養者控除で日数制限のあるパートさんの使い方など、大変参考になりました。感謝して、ニコニコさせていただきます。

矢野 理恵 会員：昨日、働き方改革というセミナーを成田で開かせていただきました。皆さん働き方改革に向けて準備ができていないのではないかと思います。先週、卓話でも小川会員から色々なお話がありました。パートさんにも有休を与えなければいけない。有休のあり方ひとつにしても、就業規則などに明記しておかなければ今はすぐに裁判で訴えられてしまう時代になっております。個別にご相談していただければ、こういうやり方があるとお伝えできるかと思えます。昨日は、来ていただいた皆様、ありがとうございました。

神崎 誠 会長：私はセミナーに行けなかったのですが、人事の係長が出席させていただきました勉強させていただきました。

## ◇ 会長の時間 神崎 誠 会長

皆様 こんにちは。毎日晴天が続き、北風が吹くと大変寒く感じる今日この頃です。また、空気もとても乾燥しており、火の用心には十分ご配慮ご注意をお願いします。

成田空港南 R C 土屋俊夫様 ようこそいらっしゃいました。ごゆっくりお過ごしください。

土屋さんは例会後 2 月 11 日(月)に開催される R L I Part I の打ち合わせを成田 RC の DL とすることになっております。宜しく申し上げます。



さて、最近のニュースでは、東シナ海では、日本の哨戒機と韓国海軍艦艇の「威嚇行為」が解決するどころか韓国側はエスカレートしています。またロシアとの北方領土問題はなかなか前進しません。私が若い頃、北方領土4島返還が世論だったと記憶していますが、2島でも難しい状況です。日本外交の腕の見せどころだと思います。政治家、官僚の皆様は頑張ってくださいと思います。

そんな中、諸岡靖彦ガバナーエレクトがアメリカでの Gets (研修) を無事終了され帰国されました。インターナショナルな世界での見聞の一端をぜひお話頂きたいと思ひ、本日卓話をお願いいたしました。都合で欠席ですので、急遽近藤会員に頼みましたので、宜しくお願ひいたしました。挨拶とします。

#### ◇ 医療情報 橘 昌孝 会員

本日欠席の方の中にもインフルエンザの方がいらっしゃると思います。今、再流行しております。先週 970 名、今週は 1775 名。おそらく来週は 2000 名をはるかに超えてくると思います。うがい、手洗い、マスクを忘れずに！我々がインフルエンザになることによって、家族・会社の社員が困ります。まず我々が率先してインフルエンザにならないようにすることが重要です。



#### ◇ 幹事報告 平山 秀樹 幹事

##### 【回覧】

- ・例会変更 印西ロータリークラブ
- ・出欠表 (新酒を楽しむ会、第10グループゴルフコンペ、第1回 PETS 当日準備)
- ・地区広報・イメージ向上より「イメージブランディングガイドブック」



#### ◇ 卓話

## 「醤油王国千葉県」

### —千葉県と和歌山県との関わり—

#### 近藤 博貴 会員

今朝、矢野会員から急遽卓話者がいないと言うことで電話があり、何を話そうかと考えました。私は長野県の出身なのですが、東京支部の集まりがあり、そこで話をしてくれないかと言うことで、丁度集めている資料がありましたので、その話をしたいと思います。千葉県と和歌山県には、非常に関わりがあると言うことでお話をしたいと思います。

今日の話のきっかけは、8年前の平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災によって大津波が発生しましたが、その事がきっかけで『稲むらの火』というのが取り上げられるようになりました。平成 25 年 10 月の末、御茶ノ水の明治大学で『稲むらの火と濱口梧陵シンポジウム』があり、これに参加しました。そこでヤマサ醬



油 7 代目経営者の濱口梧陵と言う人を知ることになり、そこから醤油の話に結びつくという結果になりました。

1. 千葉県と和歌山県の一部は地形が似ている。

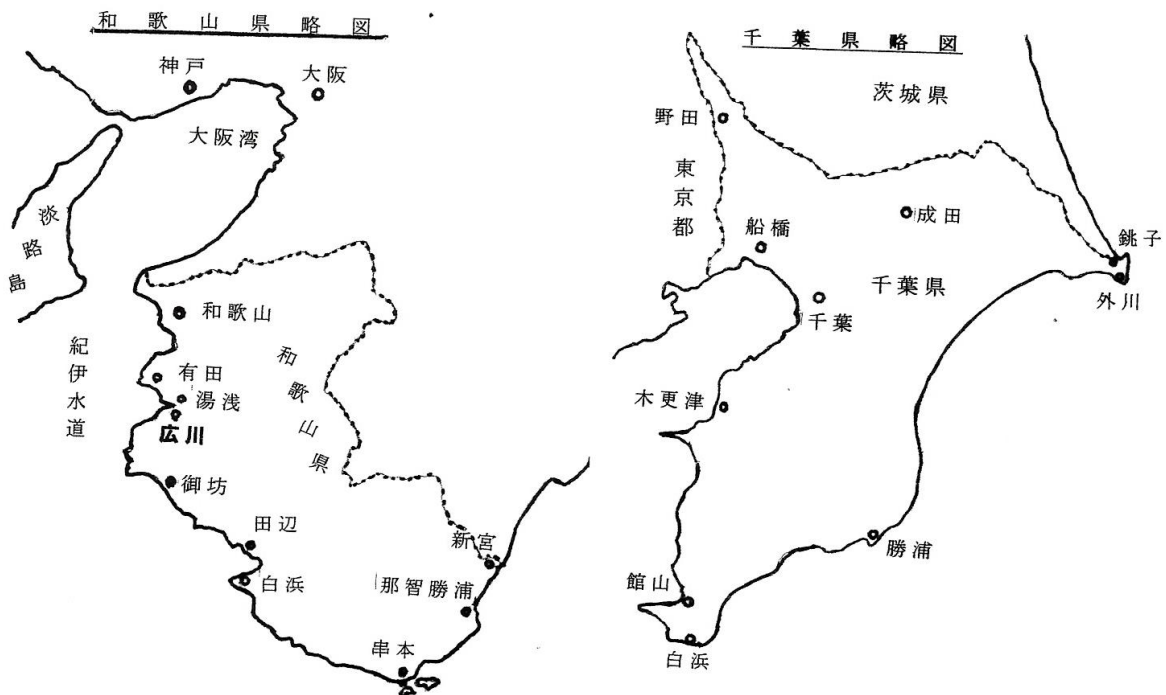
- 山地が海岸に迫っていて耕地が少なく漁業に頼っている。1610年代中ごろから、紀州の漁業者が九十九里浜にやって来てイワシ漁を始め、のちに紀州の人たちが「勝浦」や「白浜」に移住した。1658年には崎山次郎右衛門が銚子の「外川」に漁港を造り本拠地としている。外房（太平洋岸に面した地域）には和歌山県から移住した人達の子孫が多い。

2. 千葉県の醤油醸造業の始まり。

- 兵庫県西宮の酒造家が醤油の醸造を勧めた。また、漁業者の成功を知った和歌山県の広村（現広川町）から銚子で醤油醸造を始めようとする人が出てきた。広川町に隣接する湯浅町は古くから醤油の醸造や取引で有名であった。

3. 千葉県の醤油醸造の立地条件。

- 原料の大豆、麴の原料の小麦の産地が近くにある。
- 1603年江戸幕府が開かれ、江戸城や市街地造成のため多くの人々が江戸に集り、醤油の消費が増えたのではないかな。
- 醤油を江戸に運ぶには水運が便利で、利根川、江戸川、利根運河（利根川と江戸川を結ぶ）などが利用できた。



# 千葉県 の 醤油 醸 造 業 と 商 標

## ◎ ヒゲタ醤油

1616年(元和2年)銚子の豪農田中玄蕃が、西宮の酒造家真宜九郎右衛門(さなぎくろうもん)の勧めで醤油の醸造を始めた。関東で最も古い醤油醸造家と言われる。その後銚子には田中家のほか濱口家(ヤマサの遠縁)、深井家などの醤油醸造家があり、1914年(大正3年)に三つの蔵が合併し、銚子醤油合資会社を設立した。1976年(昭和51年)ヒゲタ醤油株式会社に改名している。

ヒゲタのマークの由来はいくつかあるが、一説には初め入山田のマークを筆で書いたとき、田の字から墨が垂れてヒゲのように見えたところから、周囲がヒゲタと言うようになったという説がある。また、醤油醸造に必要な水を得る井戸の場所を探していたところ、夢にヒゲの仙人が現れ教えてくれたとも言われている。現在の代表者は濱口敏行氏である。

## ◎ ヤマサ醤油

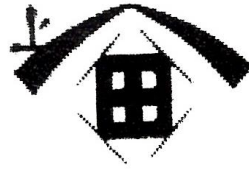
和歌山県有田郡湯浅村(現湯浅町)は古くから醤油醸造業が盛んな土地であった。1645年(天保2年)紀州出身者が銚子で漁業に成功したことに触発され、湯浅の隣の広村(現広川町)の初代濱口儀兵衛は調子に来て醤油醸造を始めた。ヤマサの暖簾は当初「山笠」にキであったが、徳川家の御用船が同じ印を使用していたので、キを横にしたところ、サに見えることからヤマサが通称になったと言われている。マークの右上に「上」の文字が入っているが、徳川幕府から「最上醤油」の称号が与えられたということを示している。前述のヒゲタ醤油のマークは左上に「上」の字が入っているが、ヤマサと同じ意味と思われる。ヤマサの現会長は第12代濱口道雄氏である。

## ◎ キッコーマン

野田の醤油は、永禄年間(1558～70)に飯田市郎兵衛という人が、甲斐武田氏に溜醤油を献上したのが始まりという。江戸時代になって1661年高梨兵左衛門が醤油醸造業を創め、翌年茂木七左衛門が味噌の醸造を創めた。1640年利根川と江戸川を結ぶ運河が開鑿され、原料や製品の輸送が便利となり醤油醸造業が盛んになった。

1781年高梨、茂木家など七家による野田醤油仲間ができ、1887年(明治20年)に「野田醤油醸造組合」が結成された。1917年(大正6年)野田市にあった八家の醤油醸造家が合同して野田醤油会社を作り、会社の創立に際し統一商標を「亀甲萬」とした。「亀甲」は香取神宮の山号で「鶴は千年、亀は萬年」の言葉を組み合わせたとされている。会社創立当初に香取神宮に関係のある者がいたのではないかと思われる。のちに「キッコーマン株式会社」と改称した。製品は日本の生産量の約30%を占め、北米を中心に南米、アフリカ、インドなどにも輸出し世界中に広まっている。現在「キッコーマン」は株式市場に上場しているが、ヒゲタとヤマサは上場していない。名誉会長は茂木友三郎氏、社長は堀切功章氏である。

以上3社の歴史を調べてきたが、まだ日本各地には小規模ながら醤油の醸造をしている企業が多くある。



## 「稲むらの火」にちなんで

平成23年3月11日、東日本大震災が起きてから8年になろうとしています。この地震による大津波のあと津波に対する注目度が一段と高まりました。宮古市重茂秋吉(おもとあきよし)地区には「高き住居は児孫の和楽、想え惨禍の大津浪、此処より下に家を建てるな」という石碑があり、先祖の教訓が生かされ海岸から数百メートル以上離れた坂上に住居を建て、犠牲者が減ったという話もあります。

「稲むらの火」という話を聞いたことがありますか？戦前文部省が国語読本として採用していた文章をレジュメにしておきました。この話は江戸時代末期、今から160年ほど前に和歌山県で起きた地震のあと津波を予想し、稲むらに火を放ち村人たちを救ったという話です。この話の原本は小泉八雲の小説「仏陀の畑の落穂拾い」の中の A Living God という部分で、国語読本の文章は、中井常蔵という教員が八雲の小説の一部分を教科書用に要約したものです。

この話の主人公が濱口梧陵(儀兵衛)という人物で、銚子のヤマサ醤油の7代目の経営者です。次に濱口梧陵の事績を挙げましたのでご覧ください。

「稲むらの火」は、安政元年11月5日(1854年12月24日)の夜、紀伊国広村(和歌山県有田郡広川町)で安政南海地震が発生した。この地震による大津波を予想し、濱口梧陵(当時35歳)は自分の田にあった藁の山に火を付け、安全な高台にある八幡神社への誘導路を示す明かりとし、速やかに住民を救済した。結果として、村人の9割以上を救った。

[物語は史実と一部異なる部分がある。]

濱口梧陵(1820.7.24.~1885.4.21.)は、紀州湯浅の醤油商人である濱口分家七右衛門の長男として生まれた(幼名七太)。12歳で本家(濱口儀兵衛、醤油醸造業を営む)の養子となり(儀太と改名)銚子に移る。

その後若くして江戸に上って、佐久間象山の門を叩き開国論者となる。また勝海舟とも交友を深める。海外留学を志願するが、開国直前の江戸幕府には受入れられなかった。嘉永6年(1853)七代目の濱口儀兵衛を相続し、銚子ヤマサ醤油の経営を行なうと共に、故郷の広村の名主として両地域を往復していろいろな事業を行なった。実業家、社会事業家、政治家でもある。(梧陵は雅号)

### ○社会事業

- ・嘉永5年(1852)同業の濱口吉右衛門、岩崎重次郎とともに広村に那耆(なぎ)病院を創り、「耐久舎(たいきゅうしゃ)(現在の和歌山県立耐久高校)を開設して後進の育成を図った。
- ・安政元年(1854)安政南海地震後の津波の被害の復旧につとめ、4,665両という私財を投じて破壊した橋や堤防を約4年かけて修造した。これらに必要な資金は、ヤマサ醤油から得られた利益の大部分を当てたといわれている。
- ・昭和21年12月21日に起きた南海道大地震後の津波では、かつて海岸に築いた堤防で村



を救った。広川町は有田市の南東約10kmにある町で、三角形の海岸の奥にあり、津波により被害を受けやすく、昔から被害にあっている。

・文久3年(1862)医者関寛齋は佐藤泰然(順天堂)の推薦により、梧陵の支援を受けて銚子で医院を開業し、銚子でコレラの防疫にも当たった。

#### ○政治家

・慶応4年(1868)商人の身ながら異例の抜擢を受けて、紀州藩勘定奉行に任命されるなど藩政改革の中心に立ち、紀州藩・和歌山県の近代化に尽力した。

・明治4年(1871)大久保利通の要請で、初代駅頭(えきのかみ)に(後の逓信大臣に相当)就任したが、次官の前島密との確執もあり半年足らずで辞職した。

・明治13年(1880)和歌山県初代県会議長に就任した。

・明治18年(1885)夢であった世界旅行に出発したが、ニューヨークの病院で胃がんのため病没した。満66歳

\*注 安政の大地震や幕末の混乱期のため、しばしば改元が行なわれた。

嘉永(1848～1854) 安政(1854～1860) 文久(1861～1864)

元治(1864～1865) 慶応(1865～1868) 明治(1868～1912)

終りに、私たちは常にいろいろな災害に直面する機会があります。災害に関する情報は公的機関が提供してくれていますが、こうした情報を受入れて状況を判断し、どう災害に対処するか、避難するかなどの決断をするのは個人の判断にかかっています。普段から心の準備をしておく必要があるかと思えます。

### ◇ 点 鐘 神崎 誠 会長

#### 出席表

会員数	出席義務者数	出席数	欠席数	出席率	前回補正
70	68	37	31	54.41%	67.65%

#### MAKE UP CARD

氏 名	月 日	ク ラ ブ 名
諸岡 靖彦 会員	1月13～18日	サンデイエコ <sup>®</sup> 国際協議会
渡辺 孝 会員	1月16日	成田コスモ <sup>®</sup> リタンロータークラブ <sup>®</sup>

事務局 〒286-0127 成田市小菅 700  
成田ビューホテル内  
電話/FAX 0476-33-8786

例会場 成田ビューホテル  
電話 0476-32-1111  
例会日 金曜日 12:30  
例會出欠連絡先(直通)  
電話 0476-32-1192 FAX 0476-32-1078